

2019年2月26日

損害保険ジャパン日本興亜株式会社

【東日本大震災発生から8年】 「災害への備えに関するアンケート」結果

～あなたの災害への備えを点検しませんか？～
約4割のご家庭で、地震や津波の防災をしていない

損害保険ジャパン日本興亜株式会社（社長：西澤 敬二）は、東日本大震災の発生から8年を迎える3月11日を前に、「災害への備えに関するアンケート」を実施しました。そのアンケート結果および専門家からのコメントをご案内いたします。

■アンケート結果のポイント

1. 8割弱の方が、お住まい地域で自然災害の発生確率が高まっていると感じている。（質問2）
2. 4割弱のご家庭は、地震や津波への備えをしていない。（質問3）
3. 5割強のご家庭は、大雨・台風、雪災などの自然災害への備えをしていない。（質問5）
4. 過去一年間で支出した防災費用の平均は18,492円。（質問6）
5. 7割弱の方が、「ハザードマップ」で自宅周辺の災害リスクを確認していない。（質問8）

<アンケート概要>

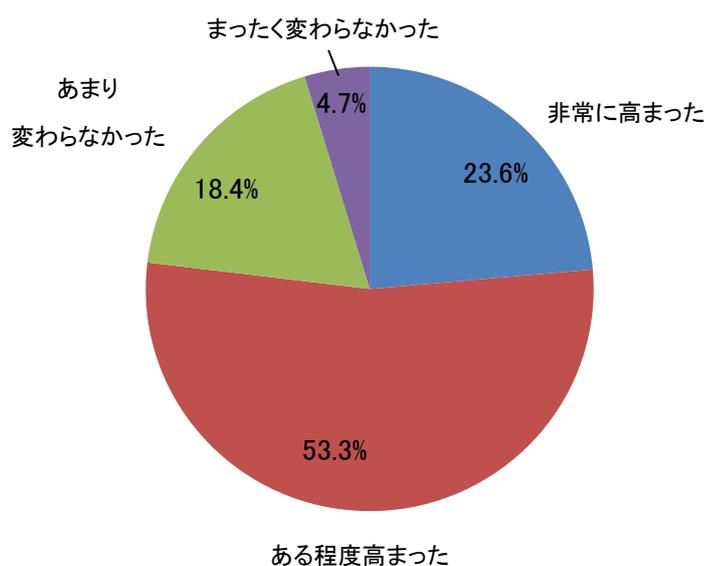
調査期間 : 2019年2月13日（水）～2月17日（日）
調査方法 : インターネット（PC、携帯電話モバイルサイト）
調査対象地域 : 全国
調査対象者 : 20～69歳の男女
有効回答数 : 1,200名
〔性別内訳〕 男性：588名、女性：612名
〔地域別内訳〕 北海道：150名、東北：150名、関東：151名、中部：150名、近畿：151名
中国：148名、四国：150名、九州：150名

【災害への備えに関するアンケート】結果

質問 1. 東日本大震災以降、あなたの防災への意識は高まりましたか？

■ 「非常に高まった」、「ある程度高まった」の回答合計は 76.9%と昨年（68.2%）を上回り、2年前（78.5%）の水準に戻った。

（回答者数：1,200名）

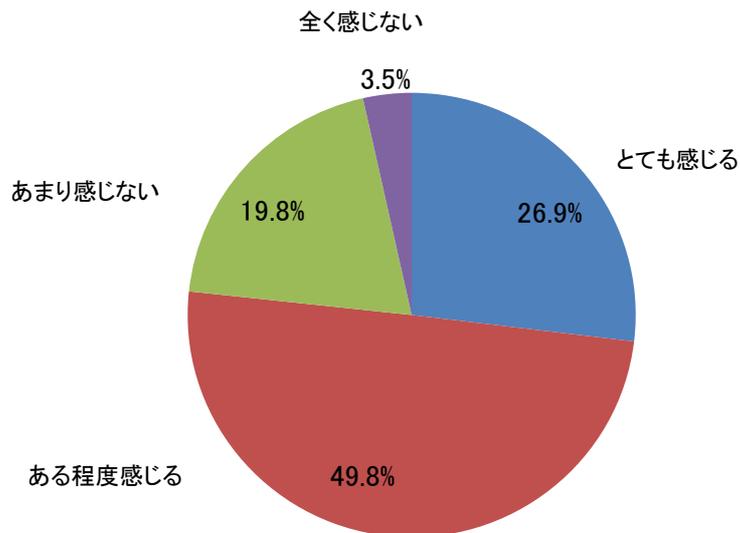


	2019年	2018年	2017年
① 非常に高まった	23.6%	19.6%	21.9%
② ある程度高まった	53.3%	48.6%	56.6%
③ あまり変わらない	18.4%	28.3%	17.6%
④ まったく変わらない	4.7%	3.6%	4.0%
①+②	76.9%	68.2%	78.5%

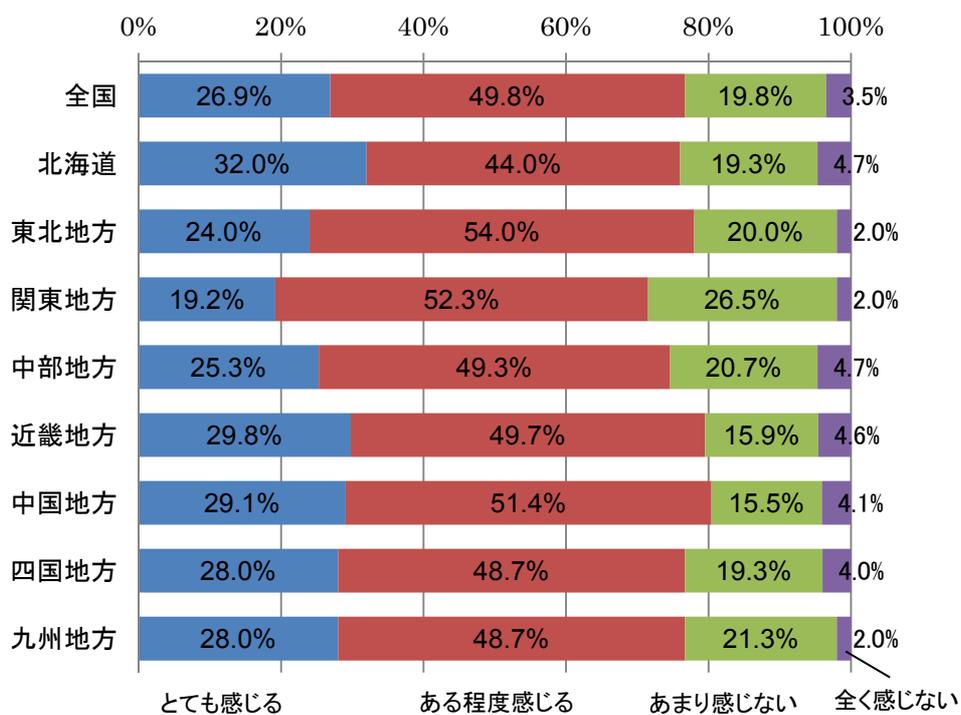
質問2. あなたがお住まいの地域では、地震や台風、大雨など大きな自然災害が発生する確率が年々高まっていると感じますか？

- 「とても感じる」、「ある程度感じる」の回答合計は76.7%であり、多くの方が、災害が発生する可能性が高まっていると感じている。
- 地域別では、「とても感じる」、「ある程度感じる」の回答が、関東で最も低く（71.5%）、中国が最も高い（80.5%）。

（回答者数：1,200名）



【地域別】



質問3. 現在、あなたのご家庭では、地震や津波への備えを何かしていますか。

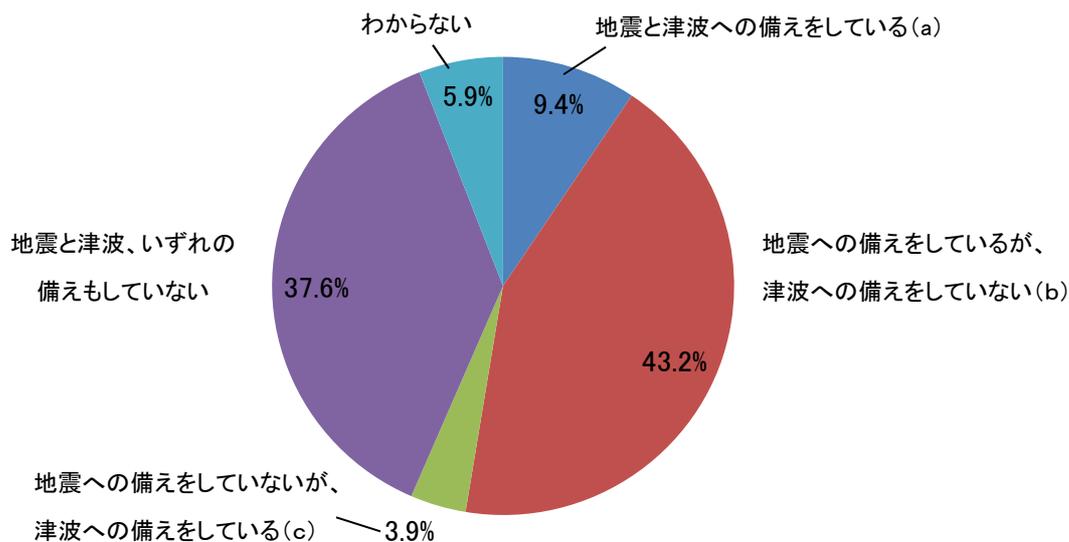
■地震や津波への備えをしているご家庭※は、全体（全国）の約6割（56.5%）にとどまる。

※回答 a、b、c の合計

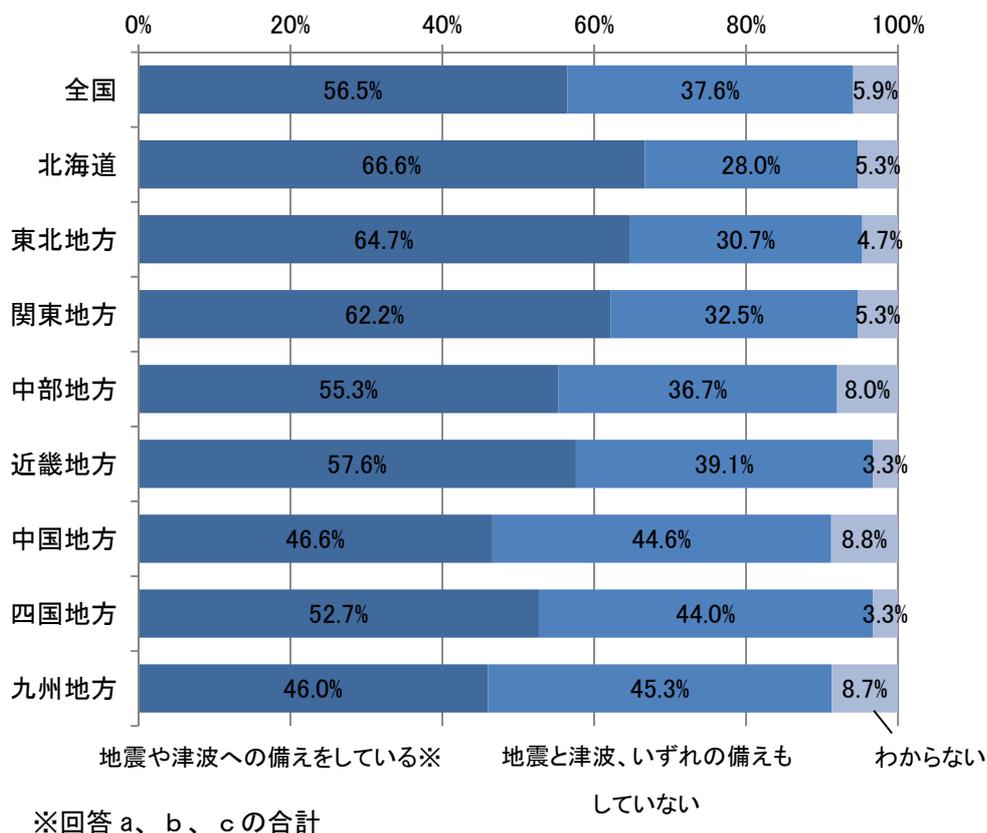
■地域別では、北海道のご家庭の約7割（66.6%）が地震や津波の備えをしている一方、中国、九州は5割を切っており、地域間で差が生じている。

■昨年のアンケートで、北海道は地震や津波の備えをしているご家庭の割合が5割（48.5%）を切っていたが、今年は全国で一番高い割合となった。

（回答者数：1,200名）



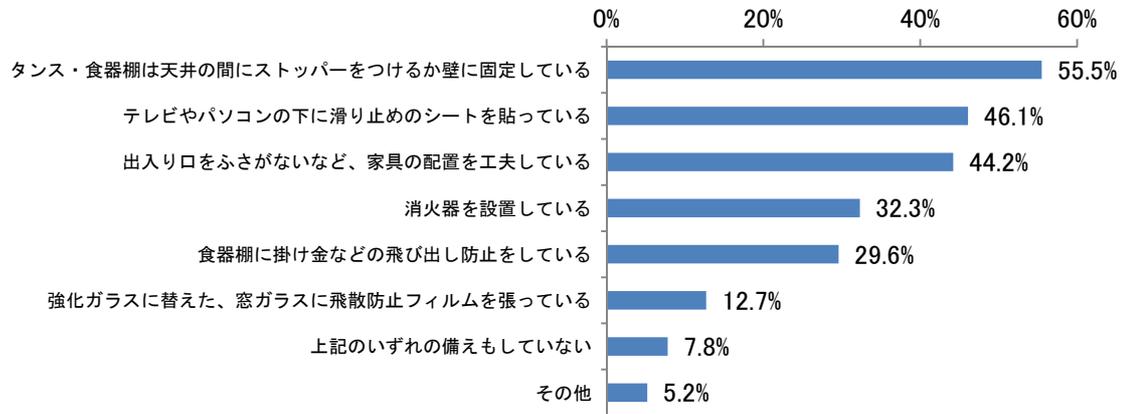
【地域別】



質問4. 地震による被害軽減のために、ご自宅で行っている対策は何ですか。

- 「家具の転倒防止」「テレビ・パソコンの滑り止め」「家具の配置の工夫」が上位となった。
- 食器やガラスの飛散防止対策は、回答割合が低い傾向となった。

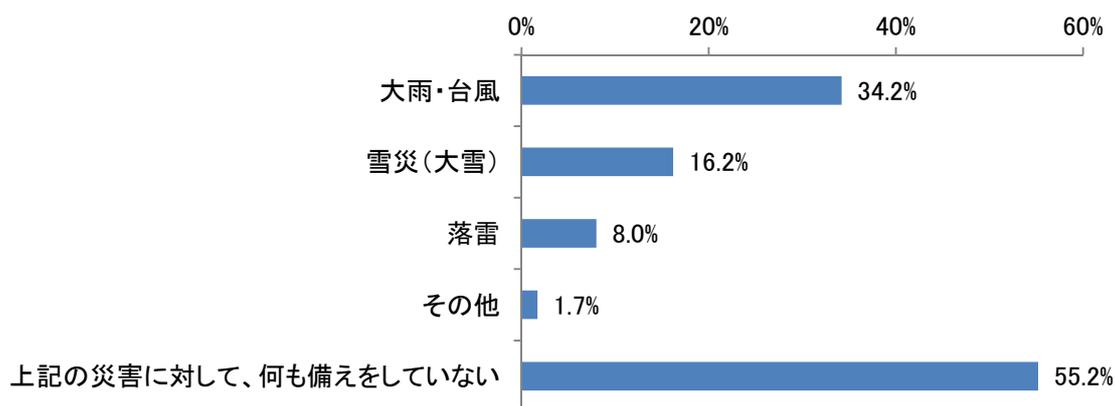
(回答対象：質問. 3で地震への備えをしていると回答した方 回答者数：631名、複数回答可)



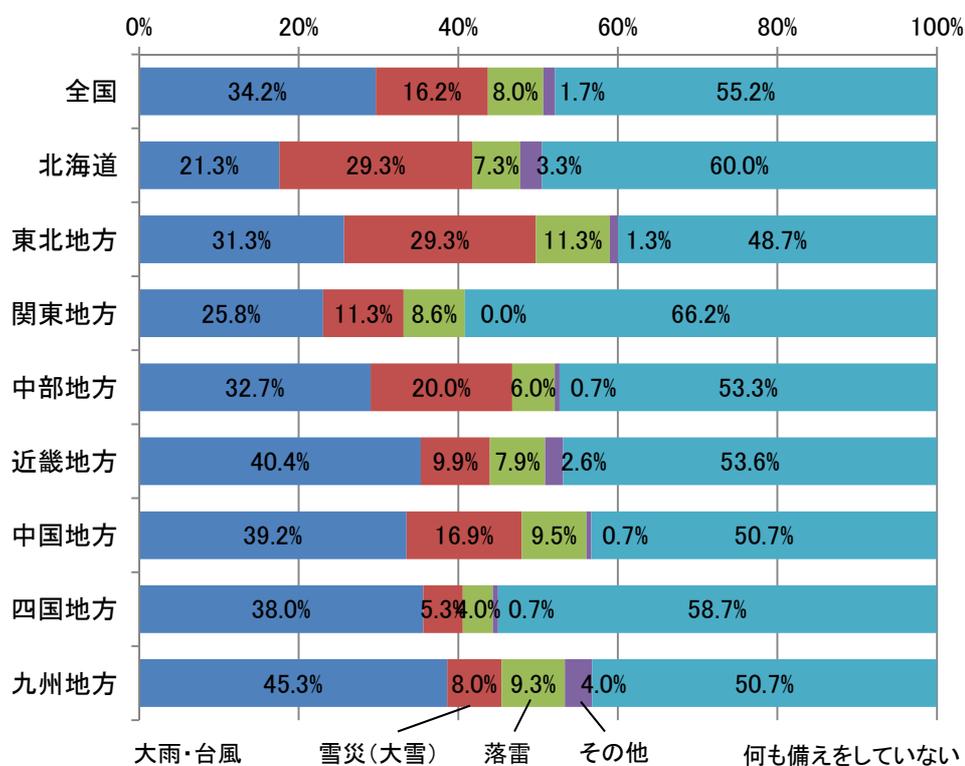
質問5. 現在、あなたのご家庭では、地震や津波以外に備えをしている自然災害はありますか？

- 半数以上（55.2%）のご家庭では、地震や津波以外の災害の備えをしていない。
- 全体（全国）の「大雨・台風」に対する備えは34.2%と昨年（27.7%）から増加。
地方別では近畿が40.4%で最も高く、昨年（24.5%）から大幅に増加している。

（回答者数：1,200名）



【地域別】



質問6. この一年間で、地震や台風など自然災害の防災対策にいくら支出しましたか？

- 全国の平均は18,492円。
- 地域別では九州が、年代別では60代が最も多く防災対策に備えた支出をしている。

(回答対象：質問. 4で何らかの対策を行っていると回答した方、または質問. 5で備えをしている自然災害があると回答した方 回答者数：742名)

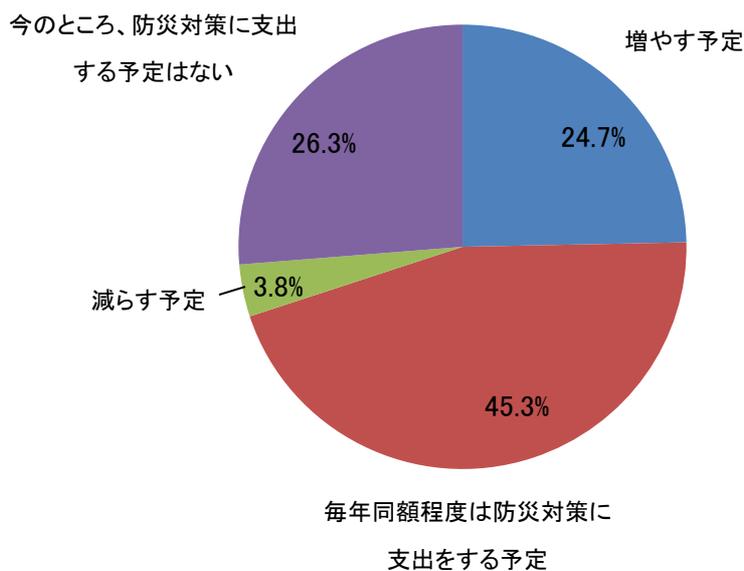
※回答条件：0円～100万円の範囲で円単位回答

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	地方別平均
北海道	4,500	11,632	16,341	16,176	52,500	18,333	19,383
東北地方	9,357	14,569	4,200	15,814	10,375	5,833	11,037
関東地方	10,451	64,327	3,951	4,000	4,091	19,800	19,960
中部地方	3,488	2,441	10,467	6,000	14,750	13,600	7,444
近畿地方	14,288	8,736	4,957	44,000	20,114	10,000	16,997
中国地方	18,546	41,045	4,962	16,091	15,569	77,500	23,240
四国地方	4,471	14,637	19,357	23,250	105,000	2,857	24,905
九州地方	16,088	10,316	17,778	89,601	17,107	8,500	26,708
年代別平均	10,465	21,569	10,200	25,643	27,563	16,667	18,492

質問7. 質問6でお答えいただいた防災対策の支出を、今後増やす予定はありますか？

- 全国で「増やす予定」、「毎年同額程度は防災対策に支出をする予定」と回答した方は、7割(70.0%)と多くの方が継続的に防災対策を実施しようと考えている。

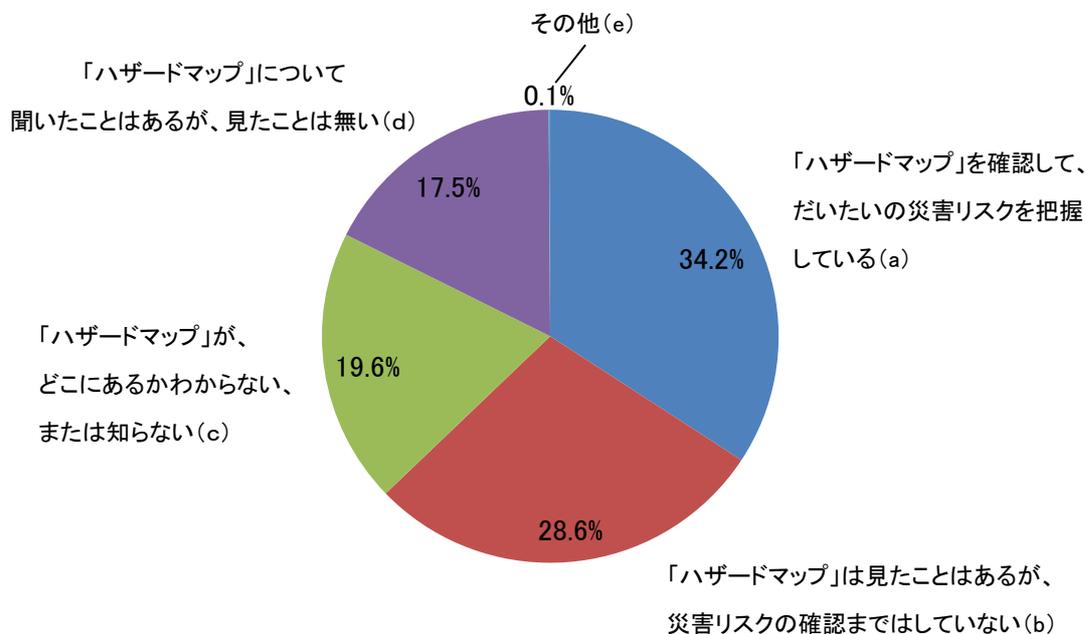
(回答対象：質問. 6に回答した方 回答者数：742名)



質問 8. あなたは、「ハザードマップ」などで、ご自宅周辺の災害リスクを確認していますか。

■約 7 割 (65.7%) の方が「ハザードマップ」でご自宅周辺の災害リスクを確認しておらず、昨年 (68%) から大きな変化はみられない。※回答 b、c、d の合計

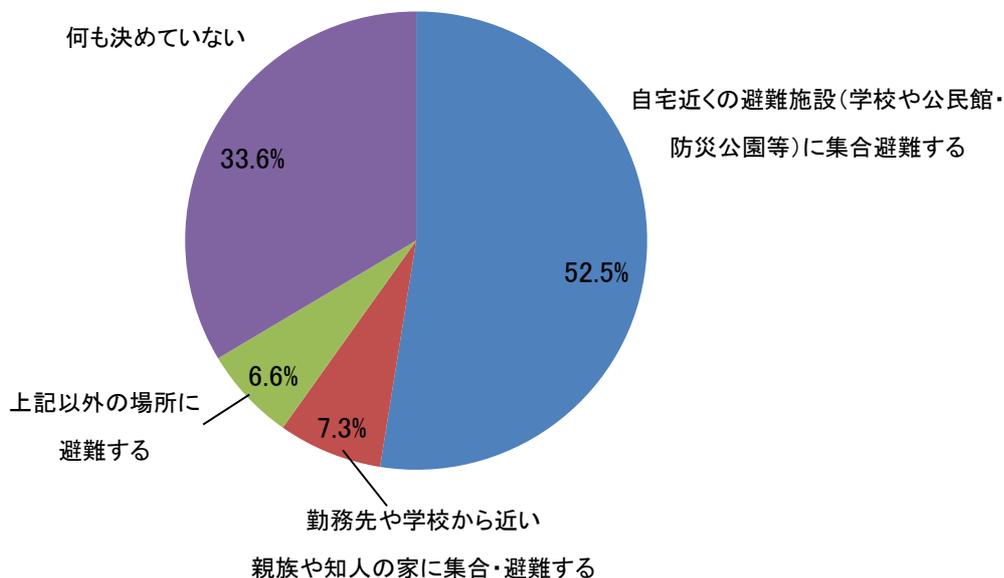
(回答者数 : 1,200 名)



質問 9. あなたは、災害時に自宅以外の家族の集合・避難場所を決めていますか？

■約 3 割 (33.6%) の方が、災害時の家族の集合・避難場所を決めていないが、昨年 (47.0%) と比較して減少している。

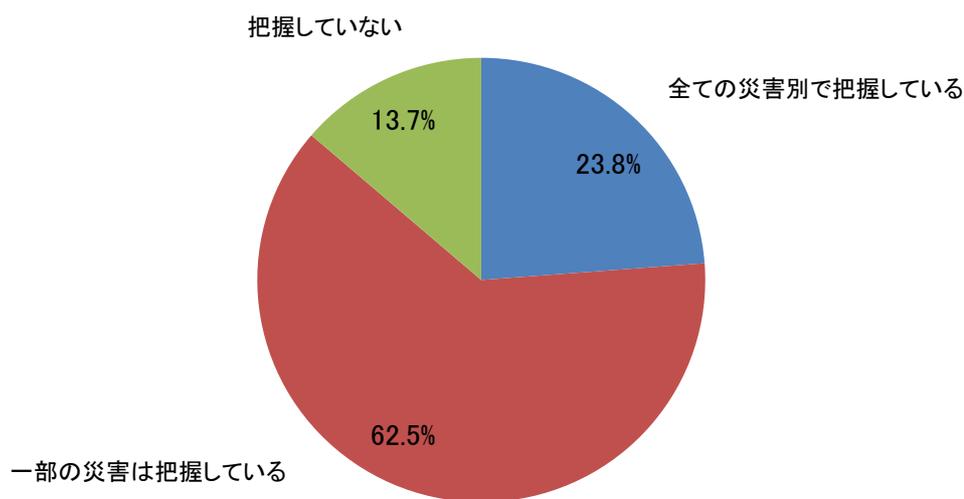
(回答者数 : 1,200 名)



質問10. あなたは、ハザードマップを確認し、災害の種類に応じた安全な避難場所・避難経路を把握していますか？

■ハザードマップを見たことがある方のうち、全てまたは一部の災害別の安全な非難場所、避難経路を把握している方は約9割(86.3%)。

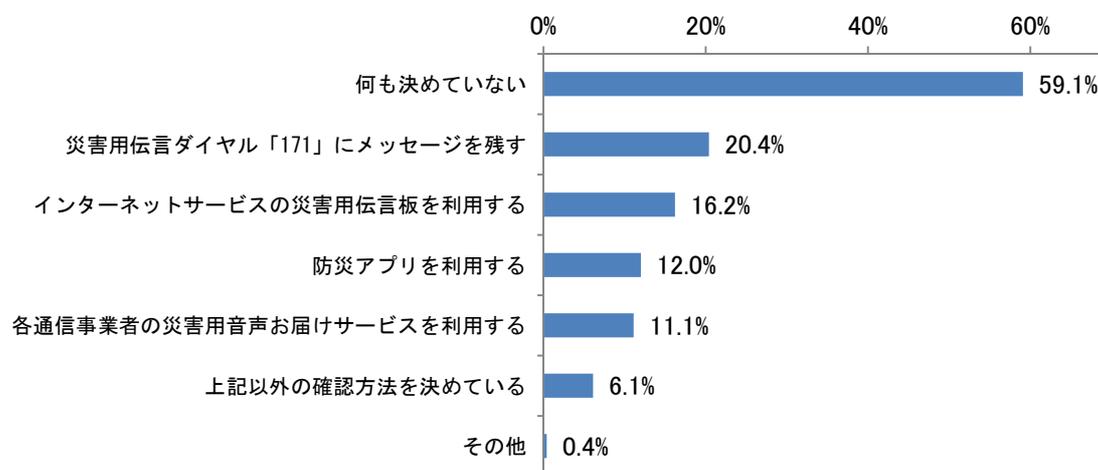
(回答対象：質問9で、「自宅近くの避難施設（学校や公民館・防災公園等）に集合避難する」「上記以外の場所に避難する」のいずれかを選択し、かつ質問8で、「ハザードマップ」を確認して、だいたいの災害リスクを確認している」「ハザードマップ」を見たことはあるが、災害リスクの確認まではしていない」のいずれかを選択した方 回答者数：541名)



質問11. あなたは、災害時のご家族の安否確認方法を決めていますか？

■約6割(59.1%)の方が、災害時の家族の安否確認方法を決めていない。

(回答者数：1,200名、複数回答可)



SOMPOリスクマネジメント株式会社

BCMコンサルティング部 リーダー 石井 和尋のコメント

2018 年は、大阪府北部地震や北海道胆振東部地震などの地震に加えて、西日本豪雨、近畿地方に大きな被害をもたらした台風 21 号などの風水害が相次ぎました。改めて、災害の恐ろしさに加え、いつ自分の周りで起きてもおかしくないという災害の身近さを思い知らされた一年でした。

アンケートの結果からも、全国のどの地域でも偏りがなく、身近に災害の危機を感じるとともに、防災へ取り組む方々が増えていることがわかります。

ハザードマップは水害や液状化の危険を知るのに非常に有効なツールです。「ハザードマップを確認したことがある」とアンケートで回答した方の割合は半数を超えますが、具体的にリスクまで理解されている人の割合は少ないようです。改めて、ハザードマップを確認して自宅・職場などのリスク（浸水深など）を認識したいところです。

また、特に水害や津波の場合、リスクは認識していても避難が遅れてしまっは人命に関わる危険にさらされる可能性があるため、手遅れにならないよう迅速に避難しなければなりません。自治体の発令する避難情報に注意し、早め早めに行動することが肝心です。

防災へ取り組む方が増えている一方で、「何の備えもしていない」と回答した方もまだかなりの割合に上ります。最初から完璧な備えを目指すのではなく、まずは簡単で費用をかけずにできることから取り組むことをお勧めします。例えば、ハザードマップ等によるリスクや避難場所の確認、水・食糧・乾電池などの多少の買い置きから始めてはいかがでしょうか。